

第3学年1組 算数科学習指導案（略案）

平成30年 9月20日（水）

指導者 教諭 横尾 直子

1 教材名「あまりのあるわり算」

2 本時の学習

(1) 目標

余りを切りあげて処理する問題において、余りの意味を考えて正しく処理する方法を説明することができる。

過程	時間	学習活動 T 発問・指示 C 児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価	備考
導入	5	<p><b>1 本時の問題場面をつかむ。</b></p> <p>子どもが23人います。長いすに4人ずつすわっていきます。 みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか。</p> <p>T これまでの問題とくらべてちがうところはどこでしょう。 C あまりを聞いていない。</p>	<p>・これまでの問題との違いについて話し合い、「みんなすわるには」という言葉に着目させる。</p>	場面絵
展開	10	<p><b>2 自分で考える。</b></p> <p>C <math>23 \div 4 = 5</math>あまり3 ・あまりは考えなくていいから <u>5きやく</u> ・3あまるから <math>5 + 3 = 8</math> <u>8きやく</u> ・あまりの3人が座るには、あと1きやくいるから <math>5 + 1 = 6</math> <u>6きやく</u></p> <p>めあて 長いすの数はいくつなのか考えよう。</p>	<p>・自分の考えを書けた児童から個人→ペアで交流させる。</p>	
	15	<p><b>3 みんなで話し合う。</b></p> <p>C 図にかいてみたらわかりそうだ。 C みんながすわるには、のこりの3人もすわるために1きやく必要だから <math>5 + 1 = 6</math> <u>6きやく</u></p> <p>まとめ みんながすわるためには、もう1きやくいすがいるから、答えに1ふやす。</p>	<p>・代表の児童が描いた図の続きをノートにかかせる。 (自分の考えは残しておく。)</p> <p>・全員が説明できるようにペア→ぐるぐるタイムで発表する。</p> <p>◇残った3人が座るためには、1脚増やすことを図を示しながら説明することができる。【数学的な考え方】</p>	シール
	5	<p><b>4 適用問題をとく。</b></p> <p>子どもの数…17人 5人ずつすわる時は？</p>		
まとめ	10	<p><b>5 学習をふりかえる。</b></p> <p>T わがともでふりかえりをしましょう。(個人→班→全体)</p>	<p>・友だちとの関わりで学んだことを紹介し、児童の言葉で授業を締めくくる。</p>	わがともシート